

学校名		武雄市立西川登小学校			C：やや不十分である D：不十分である					
1 前年度 評価結果の概要		・全職員が研究授業を行うことで課題の共有と共通実践の意識が高まり、授業力の向上を図ることができた。次年度は、校内研究の教科枠を広げた上で課題の共有と共通実践を行い、学力向上とともに教職員の資質向上につなげるようにしたい。 ・「凡事徹底」を合言葉に、靴そろえや挨拶など全校で共通した取組を行ってきた。次年度もこれを継続し、「月の心」や教育相談の実施により、一人一人の児童の困り感に寄り添いながらいじめ等の未然防止に向けて児童理解を深め協働体制を強化していきたい。 ・開かれた学校づくりの推進に向けて家庭・地域と連携・協力し、子どもの出番・役割・承認の場を数多く設定し、学校・家庭・地域で「心も体も『元気』な子ども」を育成したい。								
2 学校教育目標		ただしく・やさしく・たくましく 人との関わりを大切にしながら よく遊びよく学ぶ西っ子 ～ Try & Error & Cheer ～								
3 本年度の重点目標		1 子どもの安心・安全が保障される学校 ～「命」が最優先～ (1) 仲間づくり・学級づくり (2)安全教育の充実と安全な環境づくり (3)健康・体力づくりの充実 2 個性に寄り添い、きめ細やかな指導を工夫する学校 ～一人ひとりを大切に～ (1) 特別支援教育の充実 (2) 個に応じた授業の充実 (3) I C T 利活用教育の充実 3 地域と共にあり、「主体的・対話的で深い学び」を実現する学校 ～ 授業力アップ～ (1) 地域学校協働活動の充実 (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現 (3) 校内研究・職員研修の充実								
4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価		主な担当者			
(1)共通評価項目										
重点取組			中間評価		最終評価			学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)		実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による課題の共通理解と共通実践 (わかの授業に向けた授業改善)	・「勉強はわかった」について肯定的に回答した児童95%以上	・友達と交流する活動において他者の考えに触れさせ、自分の考えを深め広げられるようにする。 ・ICTを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。	A	・児童アンケート「勉強は分かった」でA評価53.6%、B評価44.6%で肯定的回答(A+B)が98.2%で目標を達成した。 ・友達と交流する活動については校内で共通実践ができている。児童に、書き込みや図に表すなど視覚化することを徹底させ、さらに考えを深め広げる取組を進めていくようにする。 ・ミニICT研修会等を実施し、授業への活用が充実してきた。	A		・児童アンケート「勉強は分かった」でA評価38%、B評価57%で95%が肯定的な回答をし、目標を達成した。 ・「学力がつく西部型授業の実践をする」の教師の肯定的回答が100%で、日々の授業で考えを視覚化し考えを深め広げる共通実践の積み重ねができた。 ・90%の職員がICTを積極的に活用した授業を実施できた。	A	・ICTの積極的活用と学力向上は関係があるのか？教科・単元等で効果が出ているか？効果的な取組を継続してほしい。
	○自分の考えを伝え合い、主体的に学ぶ児童の育成	○「児童が自分の考えを進んで発表できるような授業づくりをすることができた」について肯定的な回答をした教員90%以上	・児童が自分の考えを進んで発表できるような学習活動を工夫する。 ・ICT等を活用して、自分の考えを表現する場を設定する。	A	・教員アンケートの肯定的回答が100%で目標は達成できたと言えるが、A評価は12.5%と低く、取組の工夫が必要である。 ・発表や交流を活発にするために、学び合いで使いたい言葉や動作の価値づけを進めている。 ・ICT活用について、教員アンケートでは肯定的な回答が高まりつつあるが、実践交流会等を設定することにより活用への意欲が高まりつつある。	A		・教員アンケートの肯定的回答が100%で目標は達成できた。A評価20%で、中間評価から7.5ポイント増加した。 ・ICT活用の実践交流会を実施したり研究授業の参観にを推奨したりして、ICT活用についての教員アンケートで肯定的な回答が80%と向上した。	A	・児童アンケートで家庭学習について否定的な回答をした児童が数人いるので、学校として対応を工夫してほしい。 ・大勢の人の前でも堂々と発表できる児童を育ててほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動することなど、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちを大切に、仲良く過ごすことができた」について肯定的な回答をした児童90%以上	・子ども同士の関わりを深める活動の工夫 ・自己有用感を高める「出番・役割・承認」の設定 ・たてわり活動の充実(なおよし掃除や学校行事)	A	・「友達を大切に、仲良く過ごすことができた」について肯定的な回答をした児童が100%であった。そのうち21.4%の児童が「だいたいできた」と回答していた。1学期は、縦組活動は「縦組掃除」しか実施することができなかったの、今後は、運動会等、異学年交流の場を設けるようにすることが課題である。	A		・「友達を大切に、仲良く過ごすことができた」について肯定的な回答をした児童は100%であった。目標を達成した。そのうち11%の児童が「だいたいできた」と回答しており、中間評価より10.4ポイントA評価が増加した。運動会や長縄大会など異学年交流の場を1学期よりも多く設定することができ、充実した活動を実施できた。	A	・児童アンケートで肯定的な回答をした児童が多く、さらに伸ばすよう指導を継続してほしい。 ・異学年交流は思いやりの心が育つのでいいことだと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「道徳の授業の充実」について肯定的な回答をした教員90%以上 ○「友だちを大切に、仲良く過ごすことができた」について肯定的な回答をした児童90%以上 ○「困ったとき担任の先生に話す」で肯定的な回答をした児童80%以上	・ふれあい道徳(授業参観)を行う。 ・定期的な情報交換による子どもの共通理解(毎週水曜日「教育相談連絡会」) ・SQ、SSWと情報共有を行い、連携を図る。 ・Q・U実施と職員研修等での分析 ・年2回(6月・11月)に人権に関する啓発週間を設定する。	A	・「道徳の授業の充実」についてA評価は25%、B評価は75%で、肯定的な回答をした教員は100%であった。 ・「友達を大切に、仲良く過ごすことができた」について肯定的な回答をした児童が100%だった。また、職員アンケート「いじめの早期発見・早期対応に向けた取組」でも、A評価37.5%、B評価62.5%、合わせて100%だった。 ・困ったときに担任の先生に話している児童が94.7%だった。残りの5.4%の児童への早期対応が課題である。	A		・「道徳の授業の充実」についてB評価が90%で、肯定的な回答をした教員は90%であった。 ・「友達を大切に、仲良く過ごすことができた」について肯定的な回答をした児童は100%で、目標を達成した。 ・困ったときに担任の先生に話している児童は85%だった。学年が上がるにつれて相談できていない児童が増える傾向が見られた。意図的に時間を設定していくことも考えていきたい。	A	・児童アンケートの「友達と仲良く」「担任への相談」で、全学年高い評価をしており、心の教育の充実につながっている。全学年が仲が良く素晴らしいことである。 ・担任への相談」で否定的な回答をした児童に個別対応をさらに進めてほしい。 ・いじめ不登校防止のために「相談タイム」のような時間を作ったり言葉で伝えられない児童のために「相談ボックス」を置いたりするなど工夫するなどよい。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(6年生)80%以上 ○「キャリアパスポートを活用し、目標をもった活動と振り返りをさせる」について肯定的な回答をした教員80%以上	・キャリアパスポートを活用し、目標や見通しをもって活動に取り組ませたり、活動を通して身につけた力について振り返らせたりする。 ・総合的な学習の時間や地域人材等を活用した体験活動の充実を図る。	B	・児童アンケート「将来の夢や目標」の項目では、肯定的な回答が64.3%と低かった。職業や進路についての調べ学習を通して、残りの35.7%の児童へ指導を行う必要がある。	B		・児童アンケート「将来の夢や目標」の項目では、肯定的な回答が72%で、目標の80%を超えることができなかったが、総合的な学習の時間等で職業や進路について調べる活動を行い、肯定的な回答が7.7ポイントとわずかながら増加した。	B	・「将来の夢や目標」は、リアルな大人の声を聴かせるのもよいのではないと思う。 ・児童アンケート「夢や目標」を全学年対象に実施すれば、低学年のうちから夢や将来を考える動機付けになるのではないか。
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○「体を動かし、遊ぶことが好き」について肯定的な回答をした児童90%以上 ○「地震や火事、大雨などの災害の時に自分の命を守るための行動を知っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・交通安全教室の実施、学級活動・道徳の授業の工夫と充実 ・スポーツチャレンジの実施、外遊びの推奨。委員会で掲示物等を作成し、啓発活動を行う。 ・様々な想定の避難訓練及び各教科等での指導を通して命を守る行動について考える機会を年2回以上設定する。	A	・「ふれあい道徳」を通して、親子で道徳的価値について考え、深めることができた。 ・「体を動かし、遊ぶことが好き」について肯定的に回答した児童が96.4%であった。 ・計画的に避難訓練を実施した結果、「命を守るための行動を知っている」に肯定的な回答をした児童は96.5%だった。	A		・年間を通して避難訓練を4回実施し、安全な避難方法を考える機会を設けた結果、「命を守るための行動を知っている」に肯定的な回答をした児童は96%だった。 ・「体を動かし、遊ぶことが好き」について肯定的に回答した児童が94%であった。 ・スポーツチャレンジや委員会主催の全校外遊びを実施することができた。	A	・校内外で事故0は素晴らしい。 ・児童アンケート「ゲームの約束」について否定的な回答をした児童が、「体を動かす」でどのように回答しているか確認してみるとよい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合が10%以内 ○「業務の効率化と時間外在校等時間の削減を図る」について肯定的な回答をした教員90%以上	・定時退勤日(金曜日)の設定と徹底 ・月1回のB校時4時間授業の設定と放課後の研修等の原則禁止 ・会議資料の事前配布と提案時間の設定 ・校務端末を利用した連絡事項伝達による効率化	B	・7、8月は時間外在校時間が45時間を超える職員の割合が10%以内だった。日常的な声掛け、定時退勤日や学級事務時間の確保による成果でもある。しかし、行事の多い月や学級事務が増加する期間には、継続的な業務改善が必要である。日常的な会話や校務進行状況を把握しつつ、教員からの要望や行事の反省をもとに業務効率化を図っていく。 ・業務効率化のアンケートでは75%の教員が肯定的な回答をした。教員の意識改革を図るには改善の具体的な必要がある。	A	・会議資料のペーパーレス化を進めたり、保護者宛ての文書をメールで配信したりして、業務効率化を図った。アンケートのWeb実施は集計作業の効率化、未実施者への催促、短期間で結果公表に効果があった。 ・業務効率化・時間外勤務アンケートで肯定的な回答をした教員が90%で、15ポイント増加した。 ・時間外在校時間について、7月以降改善が見られ、10月を除き45時間を超える職員は10%未満であった。10月は学期が変わる月で、学級事務で多忙な職員が多かったことが影響している。	A	・メール配信やアンケートWEB実施はとても良かった。確認しやすいと感じた。 ・働き方改革を進めてほしい。同時に児童の学習・生活への対応をお願いしたい。 ・スマホ等のトラブルを生じさせないよう、判断力を身に付けさせてほしい。スマホ・ゲーム等を与えながらに約束をし、良い親子関係を築くこと大切である。
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性が向上した」について肯定的な回答をした教員90%以上	・特別支援教育推進部を中心に、個に応じた支援体制づくりを目指す。 ・UD教育の視点での教室環境づくりと授業づくりの工夫をする。UD教育に係るチェックシートを実施する。 ・保護者や関係機関、専門家との連携を強化し、研修の機会を年に2回以上実施する。	A	・職員アンケートでは、「専門性と意識の向上が図れた」が25%、「大体できた」が75%の回答で、全職員が肯定的な回答をした。 ・特別支援推進部と連携し、旅行や水泳、運動会等の行事前や担任の要望で、ケース会議を再開することができた。 ・職員研修として、武雄市英語コーディネーターの講話を実施し、武雄市の取組や現状、今後の連携について確認した。 ・UD教育に係るチェックシートにおいて、UD教育の視点での教室環境づくりと授業づくりを工夫することができたという89.8%の職員が肯定的に回答した。	A	・職員アンケートでは、「専門性と意識の向上が図れた」が20%、「大体できた」が80%の回答で、80%が肯定的な回答であったが、中間評価よりやや低くなっている。講師研修等により専門性を高めるような研修の時間を設定していきたい。 ・必要に応じてミニケース会議を開き、個に応じた支援体制の充実が図れた。 ・UD教育に係るチェックシートにおいて、「UD教育の視点での教室環境づくりを工夫することができた」として100%の職員が肯定的に回答した。「授業づくり」では平均80%が肯定的な回答をしている。 ・保護者や関係機関、専門家との連携を強化したことで、児童の生活環境の改善につながっている。	A	・一人一人の児童を大切にすることが重要である。専門性の向上や専門性を生かした実践をさらに進めてほしい。 ・来年度の学校運営協議会の新委員として主任児童委員の方に依頼してはどうか。もっと家庭・地域の情報が得られると思う。	
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○地域との連携の充実	○地域学校協働活動の充実	○「地域と連携した学習」について肯定的な回答をした教員90%以上	・地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動の実施 ・地域行事への児童の参加推奨	A	・教員アンケートでは100%が肯定的に回答した。地域の方の協力で、学校周辺の畑を借用して野菜を栽培したり、校区内の見学を行ったりして体験的な学習が実現できている。	A	・教員アンケートでは80%が肯定的に回答したが中間評価から20ポイント減少した。これは、地域学校協働活動や花まるタイムにおいて地域の協力を得られたが、恒例行事以外の教育活動に地域と連携する計画が少なかったことが起因している。		A	・学校内の状況が地域の人もわかる(理解してもらえる)ように、地域の人が学校へ訪れる機会を作る必要があるかもしれない。学校からの情報発信ができないか。 ・地域学校協働本部会議で議論を深めて、学校の要望に地域が応えるように努めていく。
○家庭との連携の充実	○家庭におけるオンラインゲーム・SNS等に関する「管理・確認・話し合い」の強化	○「家でテレビやゲーム、インターネットの約束を作り、守っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・集会や長期休業前にオンラインゲーム・SNS等の指導の機会を年に2回以上設定する。 ・児童・保護者を対象とした情報モラル教室を行うことによる、よりよい情報活用について考える機会の設定	B	・集会でオンラインゲームなどに関する指導を行ったり、長期休業前に家庭での約束をつくる機会を設定したりした結果、メディアやゲームに関する約束を作り、守れたと肯定的に回答した児童が84%だった。	B	・保護者にスマートフォンやSNSに関するPTA連合の案内を配付したり、児童にオンラインゲームなどに関する指導を行ったりした。また、長期休業前に家庭での約束をつくる機会を設定した結果、メディアやゲームに関する約束を作り、守れたと肯定的に回答した保護者が79%だった。		A	・保護者が子どものことを学校任せにしないように、連携を密にとることが大切である。 ・自分の子どもの生活や学校について関心のない保護者が数名いるのは残念である。
5 総合評価・次年度への展望		●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・今年度は、学校経営方針に基づき、目標の達成に向けて教育活動の効果的な実施と改善を意識し、教職員の意識の向上と継続、情報共有と協働を図った。その結果、多くの面で中間結果より上回る結果につながった。また、業務改善、教職員の働き方改革の意識向上が図られた。引き続き、教職員の意識改革と負担軽減、風通しのよい職場環境を目指していく。 ・保護者アンケートの結果では、子どものことを気軽に相談できると概ね肯定的に回答しているが、否定的な回答が10%あり、継続して「信頼される学校」を目指して取組を充実させる必要がある。オンラインゲーム・SNS等については、情報モラル講座の実施と長期休業前の家庭への啓発を必ず実施しているが、家庭でゲーム等の管理・確認ができていると回答したのは約8割だった。生活リズムの乱れが心配される家庭もあり、朝食喫食率が79%であることを鑑みて、引き続き家庭との連携を強化する必要がある。また、防災意識の向上についても目標を達成できたので、来年度も地域の特性に応じた取組を継続して進めたい。 ・地域との強固なつながりを保つことができており、公民館を窓口とした地域連携協働活動等や相模大会・運動会等の学校行事を計画的に進めることができた。また、教育活動への協力依頼には快諾・協力を得られている。次年度は、さらに開かれた学校づくりの推進に向けて、家庭・地域と連携・協力し、また、子どもの出番・役割・承認の場を数多く設定すること								